

(熊本県立第一高等) 学校 令和 7 年度 (2025 年度) 学校評価表

<p>1 学校教育目標</p> <p>「くまもとの教職員像」、「県立中学校・高等学校における教育指導の重点」、「人権教育取組の方向」、「特別支援教育取組の方向」、「体育保健課取組の方向」、「学校安全・安心推進課取組の方向」、「社会教育課取組の方向」及び本校の「白梅の精神」等に則り、「健全な心身の育成」、「学力の充実」、「主体性の涵養」を柱に、生徒一人一人の個性を伸ばしながら、心身ともに健全で叡智に富み、凜とした気品のある心豊かな人材の育成を目指す。</p> <p>そのために、教職員としての基本的資質（①教育的愛情と人権感覚 ②使命感と向上心 ③組織の一員としての自覚）及び専門性（① 生徒理解と豊かな心の育成 ② 学習の実践的指導力 ③ 保護者・地域住民との連携）の向上に努めるとともに、互いの連携と協力のもと、創意工夫を生かした教育の実践に努める。</p>
--

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>(1) 教育における不易と流行を見極め、学校魅力化の一層の推進を図る (2) 自ら考え学び、心身ともに逞しく困難にも果敢に挑戦しうる一高生の育成 (3) 新学習指導要領を踏まえた授業改善及びICTを活用した学習活動の推進 (4) 幅広い経験に基づいた自己変革力を兼ね備えたリーダーの育成 (5) 道徳教育や人権教育の推進と、いじめを許さない学校風土の醸成</p>
--

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	教育目標実現のための体制づくり	教育目標実現や課題克服に対応した組織づくり	各部・各委員会による組織的取組の強化	・創意工夫を生かした各組織による具体的取組の提案	A	各分掌による十分な検討や学年との連携が図られ取組が充実した。学校評価アンケート「各部・各教科・各学年の連携がとれ、有機的に機能している」において、職員の肯定的な回答が昨年度比で12ポイント増加した。
	信頼される学校	特色ある学校づくり	学習意欲の高まりを感じ、自学力を高めようとしている生徒の育成	・教務部、進路指導部を核とした職員・生徒に対する意識改革の実施	A	授業改善について委員会で十分に検討を行い教科に下ろし職員の意識改革に繋がった。進路指導の新しい取組が促進され、学校評価アンケート「明確な進路目標」において、生徒の肯定的な回答が5ポイント増加し、意識の高まりが見られた。
	働き方改革	働き方改革に係る環境整備と教職員の意識改革	教職員の平均勤務時間外在校時間の削減	・校務DXの推進によるスムーズな情報共有、ペーパーレス化、授業改善	A	会議資料の紙媒体配付が無くなり、校務遂行や教科指導でICT機器の効果的活用が進んだ。考査期間等を利用した年休取得が増え、時差出勤の活用が進み、働き方改革の意識が高まった。4月～12月の時間外勤務は昨年度比で3.7%減

学力向上	授業の充実	研究授業・公開授業の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間を通じた公開授業の実施 ・各教科一人以上の研究授業の実施 ・全職員による2回以上の授業参観 	<ul style="list-style-type: none"> ・いつでも誰でも授業を参観できるように1年間を通じた公開授業の実施 ・昨年の授業評価アンケートの結果をもとにした、授業改善の共通テーマを設定 ・各教科での合評会の実施と記録での報告 ・評価シートを使った参観者から授業者へのフィードバック 	A	<p>少しした。</p> <p>昨年度よりも研究授業を参観する職員が大幅に増えた。また、1年間をとおして公開授業を行ったことで、気軽に他の授業を参観する職員も増えた。合評会は実施されているが、報告書の提出が滞った。参観者から授業者へのフィードバックは行われている。それらを集約して、全職員で共有できればさらに授業改善につながっていくと思われるので、来年度検討したい。</p>
		1年間を通じた授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善の指針の提示と実践 ・授業評価アンケートの実施（年2回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善の5つの指針（教員目線、生徒目線）をもとにした授業の実践 ・第1回アンケートの結果を踏まえた授業改善の実施 ・第2回のアンケートで実践の振り返り 	B	<p>授業改善の指針は年度当初に全職員に示せた。しかし、生徒目線のものを作成するところまで行かなかった。今後は進路部が出している「授業レベルの設定」とも連携して授業改善を進めていきたい。授業評価アンケートでは、1回目（7月）よりも2回目（12月）の方がすべての調査項目において評価が高くなった。特に授業改善のテーマとして挙げている「学習意欲の高まりを感じ、自学力を高める授業」については、若干ではあるが他の項目よりも伸びが大きかった。</p>
	自学力の育成	家庭学習時間の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・平日2.5時間の家庭学習の確保 ・「classi」と「classroom」の活用 ・授業改善との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・宅週時間調査を年に2回実施 ・1年間を通じた「classi」の活用、学習記録の習慣化から家庭学習の習慣化へ ・生徒の自学力の育成へ繋げられる授業づくりの推進 	B	<p>家庭学習の目標時間は1・2年生で達成できなかった。しかし、学校評価アンケートでは「家庭学習の取組」の項目は過去回よりも評価が高くなった。「Classi」については生徒と職員間のコミュニケーションツールとしても役立っている。また生徒一人一人のデータも活用しやすいため、面談等で指導に役立てられている。</p>

キャリア教育 (進路指導)	夢実現に心を燃やし主体的に進路を切り拓く生徒の育成	進路情報の共有化と発信	進路環境や生徒の現状に関する情報の発信と共有化推進	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の進路検討会実施(3年) ・年3回の学力分析会実施(1、2年) ・年4回の進路ニュースの発行 ・D1ネットを通じた情報発信を週1回以上更新 ・月1回の進路通信の発行 	A	進路検討会や模試後の学力分析会を予定通り行うことができた。また、進路ニュース、進路通信の発行も定期的に行うことができ、加えてD1ネットでの各種募集も適宜行うことができた。「Classi」による模試結果閲覧数が多く、有用であった。今後は内容の精選や、発信方法の見直しをすることで、生徒や保護者、または指導する職員にとって有益な情報がさらに目にとまるよう工夫したい。
	教科指導力及び進路指導力の向上	教科指導力及び進路指導力の向上	各教科との連携強化による職員の教科指導力及び進路指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・県外の先進校6校を視察し、本校内の取組に還元 ・大学入試説明会及び予備校主催の教科指導力向上研修等の参加促進及び情報の還元 ・希望制夕課外の実施及び上位クラス設定による、より充実した教科指導の実施 ・年3回の難関大指導者情報共有会の開催 ・大学入学共通テストに関する分析(進路ニュースの発行) 	B	県外の先進校6校を訪問し、本校でも生かせる取組を進路部内で検討を進めることができた。一方、各大学主催の入試説明会や予備校主催の教科指導力研修への教員参加は多くはなかった。教科指導力を向上させるための取組として新たな手立ての必要性を感じており、先進校の取組を参考にしていきたい。また、今年度から実施した希望制夕課外の設定により、マンパワーに頼ることなく組織的に難関大志望生徒への指導ができたと感じている。
	進路志望実現に向けた、生徒自身の主体性向上	進路志望実現に向けた、生徒自身の主体性向上	進路志望実現に向け生徒が主体的に選択し、探究し、活動する環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスやシンポジウム等(D1ネットを用いて)への主体的参加の促進 ・本校主催九州大学オープンキャンパス等の参加を促し、低学年からの意識付けを図る。 ・キャリアガイダンスを実施(全員参加型を2回、希望者対象を5回) 	A	今年度初開催した九大オープンキャンパスツアーには約80人が参加し、事後アンケートでも低学年からの進路意識向上につながったという声が多かった。学校評価アンケートでも進路意識が年々高くなってきていることが結果になっており、職員の日頃からの面談や声かけ、進路指導部の取組が生徒・保護者の意識向上につながった。

						ていると感じている。一方、職業講話にあたる希望制キャリアガイダンスの参加者増に関しては課題を持っており、生徒にとってよりニーズの大きいもの設定していく必要がある。
生徒指導	生徒指導の継続と徹底	基本的な生活習慣の確立	自己管理（自律）の徹底 ・ 整容（身だしなみを整える習慣） ・ 時間の厳守（5分前集合の徹底） ・ 基本的な礼節を身につける（挨拶）	・ 各学期に整容指導、礼節指導、遅刻指導を実施する。また校則の意義についても集会等で理解を深めさせる。 ・ 授業の開始や集会等には時間を守る習慣を付けさせる。	B	各学期に実施予定の整容指導については、日程等の調整が難しく実施に至っていないが、生徒たちの整容に大きな乱れもなく落ち着いた学校生活を送れている。防寒着に関しては健康面を考え、規定の見直しに向け協議を進める必要があると感じている。時間を守ることに関しては、集会では生徒たち自身で整列・点呼まで行い開始時間前には整列できている。また授業の開始時間に関しては、始業前に教室に到着する職員の姿勢が一貫しており、始業のチャイム時に生徒たちは整然としている。
	自主自立の精神の育成	・ 通信機器やchrome book等の使用マナーの向上 ・ SNS等に関するネットモラルや犯罪の加害者、被害者にならないように指導徹底を図る。	スマートフォン使用に関して（使用時間帯、場所、特にSNSに関するマナー等の徹底を図る）	・ SNS等のトラブル回避のためにモラルに関する教育を集会や授業をとおして常に啓発や指導を行っていく。（ネットモラルやネット犯罪などに関するリーフやパンフレット等を活用する）	B	例年と比較して校内でのスマホの使用に関する違反は減少している。啓発・指導を通して生徒の規範意識が高まったことが大きな要因と思われ、このまま継続していきたい。今年度SNS上の大きな課題は現時点で挙がっていない。今後も継続して啓発や指導に注力していきたい。
		規範意識の高揚と自らを律する力を身につける。	一高祭やその他生徒会主催の学校行事を充実させるため生徒会活動の活性化を図る。	・ 生徒会を中心とした総務委員会の中で各々が中心となり企画・運営に携わり充実させる。 ・ リーダー研修会を実施しリーダーの育成を図る。	A	一高祭体育部門や文化部門をはじめとした各種生徒会行事はその企画・立案・運営に至るまで見事に目標を達成してくれた。また、「IKKOFFEE」販売など、ボランティア活動・義援金活動への主体的取組が進んだ。改めて本校生の

						<p>力を知ることができた。</p> <p>リーダー研修会に関しては日程等がクリアできなかったため、次年度実施する方向で考えていきたい。</p>
人権教育の推進	教育活動全体を通じた人権教育の推進	職員、生徒の人権意識の高揚	人権教育推進の年間指導プログラムの実践	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育講演会（保健部、教育相談部）の実施（年1回） ・生徒理解（教育相談部）の職員研修（年2回） ・Web講座を用いた職員研修（年1回） 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に即し人権教育講演会を全生徒に、県の人権啓発Web講座を活用した職員研修を全職員対象にそれぞれ実施することができた。 ・LHRにおいては人権教育推進委員会で年間計画について十分な検討が行われ、各学年で設定した活動の充実を図ることができた。 ・いじめアンケートに情報を挙げたり、違反質問へ適切に対応するなど、生徒の人権意識の高揚がみられた。
	「命を大切にすることを育む指導」の推進	自他の「命」を尊重し、慈しむ態度と心構えを育む取組、及び自らの自尊感情を高めるためのストレス対処に関する取組	教科指導や学年（学級）指導等、全ての場面で「命を大切にすることを育む指導」を根底に据えた教育の実践とストレス対処プログラムの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の人権教育の目標を周知する。（各学期1回） ・各学年人権LHRを実施（年3回） ・生徒人権委員会実施（学期2回） 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒の皆さんへのメッセージ」を発信し、陰口やいじり行為等により、辛い思いをする生徒がいないようにと生徒に訴えた。 ・「命を大切にすることを育む指導」を全ての教育の場面で実践することを再確認する場面設定が必要である。 ・生徒人権委員会を各学期1回、開催した。熊本県人権子ども集会を生徒人権委員会でオンデマンド視聴し、人権意識を向上させることができた。
いじめの防止等	健全な人間関係の構築	いじめ根絶に向けた取組	いじめ防止の年間指導プログラムの実践	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月10日（休日の場合は前後の日）を「いじめ防止の日」として「いじめを許さない宣言文」を宣誓（年10回） ・生徒人権委員会主導でのいじめ防止につながるための標語作成（年1回） 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめを許さない宣言文」の宣誓は4月は対面式で、5月からは生徒人権委員が電子黒板に投影し、放送部の協力を得て、年10回を実施した。 ・県教委主催のいじめ防止につながるための標語を全生徒に募集した。人権委員を対象に人権標語を募集し、作品をD-1ネットに掲

			いじめに関するアンケート実施と結果への組織的対応	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめについてのアンケート実施（年3回）と結果を受けての組織的対応 ・いじめ防止対策委員会の実施（学期1回） 	A	<p>載した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめについてのアンケートは、各学期に1回ずつ、各関係部署と連携を密にはかり、慎重に行うことができた。また、アンケート結果を受け、組織的対応と見守りを遅滞なく丁寧に行うことができた。 ・いじめ防止対策委員会を各学期実施することができた。
特別支援教育	生徒が安心して学校生活を送ることができる環境づくり	生徒の状況把握と理解に基づいた対応	特別な教育的支援や配慮を必要とする生徒の実態把握と具体的支援策の検討・実施	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な支援体制の構築（特別支援校内委員会や教科担当者会議の実施） ・週1回の学年部会、教育相談会における情報収集・共有と関係職員との連携 ・配慮すべき生徒に対する全職員による共通理解（年度当初、年2回の生徒理解研修） ・SCやSSW等、外部機関との連携 	A	部会や学年会、配慮すべき生徒の情報共有（4月）、生徒理解研修（年2回）を通して、情報共有を行い、SCやSSWと連携して対応することができた。また、特別支援校内委員会や教科担当者会議を開き、保健室と連携して、支援が必要な生徒や別室を利用する生徒等への対応を行った。
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	地域資源の活用	地域人材等の活用による学校関係者の課題解決力の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修と保護者講演会の充実を図り有用感を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員・保護者のニーズを踏まえた地域人材の選定および計画 ・実施 	A	総探発表会に学校運営協議会委員を招き、講評をいただいた。花畑PJにおける熊本市との連携、一新小との教育実習体験、防災教育における県立大との連携など、様々な機会が図られた。2学年保護者講演会においては、地元企業から講師を招き、豊富な経験を踏まえながら広く社会を捉えたキャリア形成について講話をいただくことができた。

4 学校関係者評価

- ・互いに支え合う雰囲気がある。諦めず最後まで長距離走に挑む生徒を皆で励まし合うクラスメートの姿に感動した。
- ・読書については、パソコン普及による読書量減少が懸念される。趣味と捉えるのではなく、学習の補完として位置づけるのはどうか。読書をきっかけに理科・社会など様々な分野に活用できる。
- ・部活動の作品出展にご協力をいただいております、地域から好評を得ている。
- ・高校入試の出願について、中学校の先生方が出願時に待つ必要はなくなったが、中学校から保護者の方に説明するのに手間がかかる。
- ・私立高校への進学の流れが強く、奨学生合格者は3月まで待てないため早期に進路を決める傾向がある。通信制高校の選択肢が増えている。15年後、地域によっては子どもが激減する所もある。子どもが選ぶための魅力、特色づくりが必要である。

5 総合評価

- ・各部・各学年の連携および各分掌での十分な検討により、組織が有機的に機能している。
- ・特別支援教育において、各分掌間の密な連携による、支援を要する生徒への対応が定着している。
- ・ペーパーレス化や時差出勤の活用、冬休み課外の廃止等、働き方改革が着実に進んでいる。
- ・授業改善に向けて委員会で十分検討を行い教科へ繋いだり、いつでも授業を参観できる雰囲気づくりを行うことにより、職員の授業改善や意識改革に繋がっている。
- ・進路面では希望制夕課外や難関大オープンキャンパスツアー開催等の取組を行い、難関大志望者が大幅に増加する等キャリア教育や情報発信が成果を上げている。
- ・生徒会やボランティアによるコーヒー販売や義援金活動など、主体的・社会的な活動が活発であった。
- ・いじめアンケートの結果から、周囲の変化に気づく力や人権意識の向上が見られる。
- ・外部機関との協力体制を築き、様々な機会地域や大学等との連携を図っている。

6 次年度への課題・改善方策

- ・読書に親しめる指導の工夫・充実を図る。朝の読書の機会を設定したり読書オリエンテーションの充実を検討する等により、読書に対する意識を高める。
- ・別室監督担当者の業務平準化を図る。割り当てをクラス担任および全学年の副担任を中心とする編成に拡げ、協働体制を整える。
- ・模擬試験の実施日に幅を持たせ、当日受検できなかった生徒への柔軟な対応ができる仕組みを構築する。